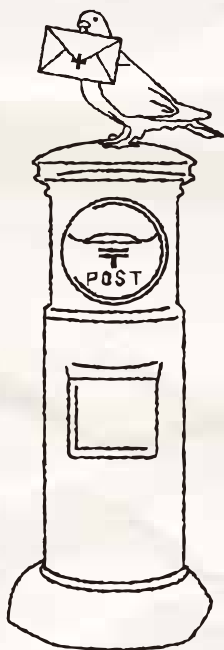


だより ほけかん

禁煙サポート外来
開始後1年を経過して



昨 年の42号では、大分大学学生の喫煙に関する実態調査や
平成26年9月より学長裁量経費により開始した

無償の禁煙外来について説明しました。

この1年間、保健管理センター職員一同、

学内の禁煙に関する教育啓発活動や

禁煙サポートの強化に関連部署や

禁煙推進担当の皆様方とともに取り組んできました。

その中で気がついた点や

現時点での禁煙外来の状況について報告し、

今後の課題について述べます。



大分大学保健管理センター
工藤 欣邦 教授

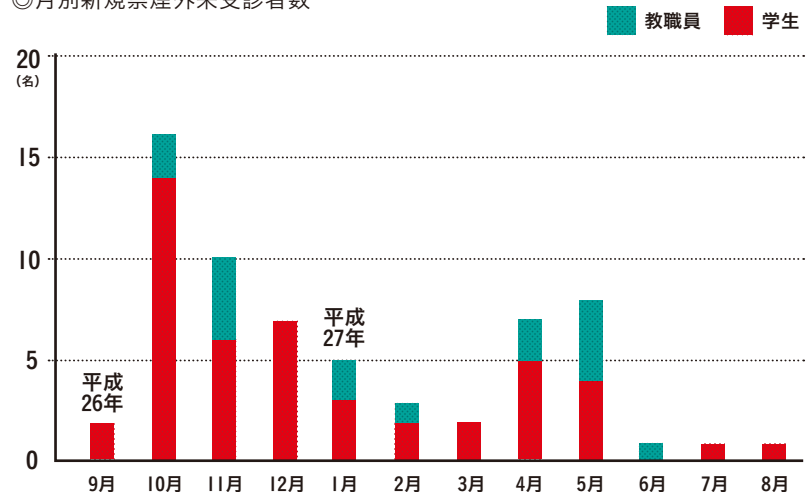


禁煙外来来所者数

平成26年9月～平成27年8月の期間、大分大学全キャンパスにおける禁煙外来の来所者は、学生47名、事務職員13名、教員3名、計63名(のべ65名)でした。図に月別新規禁煙外来受診者数を示します。禁煙治療は43名がニコチンパッチ、19名がニコチンガムで開始し、原則として2週間おきの再来としました。禁煙指導のみの1名、副反応で治療を中止した2名、休学者1名及び現在治療中の3名を除き、治療終了時から遡って4週間禁煙を達成できた割合は、学生42名中15名(35.7%)、教職員14名中11名(78.6%)でした。

禁煙補助薬を無償で提供できるようになったことや、禁煙推進担当者会議による各部署や学部間の意思の統一、講演やセミナーによる教育啓発活動、健康診断で喫煙習慣のある学生に直接禁煙指導を行ったことなどにより、平成25年度までと比較して禁煙外来への来所者が大幅に増加し、平成26年9月から行った一連の取り組みには一定の効果があつたと考えられました。ただし受診者数には波があり、禁煙外来開始直後の平成26年10月～11月や世界禁煙デーに合わせて広報活動を強化した平成27年4月～5月は多かつたのに対し、春季・夏季休業中は減少しています。

◎月別新規禁煙外来受診者数



今後の課題

学生の禁煙成功率が低く、忘年会シーズンや友人に喫煙者が多い学生に失敗例を多く認めたこと、教員の来所者が少ないこと、学内にポイ捨てされているタバコの吸殻の量が現時点においても減少した感がないことなどが今後の課題と考えられます。昨年、且野原キャンパスの学生に対して行ったアンケート調査では、喫煙習慣のある学生250名中134名が「禁煙したい」と回答していましたが、禁煙を希望する学生の43名(32.1%)しか禁煙外来を受診していません。

今後も学内での教育啓発活動を粘り強く続け、喫煙習慣のある学生・教職員の皆さんのうち1人でも多くの方が禁煙を達成できるよう、保健管理センタースタッフ一同頑張りたいと思います。

写真(上)：学生を対象とした講演会

写真(下)：出張呼気一酸化炭素濃度測定



呼気中の一酸化炭素濃度を測定するスモーカーライザー



煙草を吸いたくなったら \\ まず電話! //

大分大学学生・教職員は、保健管理センターにて禁煙補助薬による治療を**無料**で受けられます。



大分大学敷地内は
全面禁煙です。

且野原キャンパス 保健管理センター ☎ 097-554-7477

挾間キャンパス 挾間健康相談室 ☎ 097-586-5552

王子キャンパス 附属学校事務室 ☎ 097-543-7904

学長補佐(禁煙・健康増進担当)